

<第51回調査>

2013年08月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年08月13日(火)13:00～2013年08月20日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は710件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

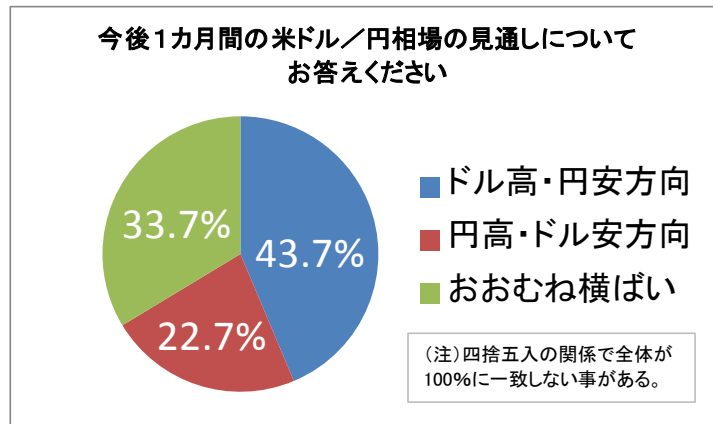
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第51回調査結果略報：米ドル強気度合いが若干低下】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

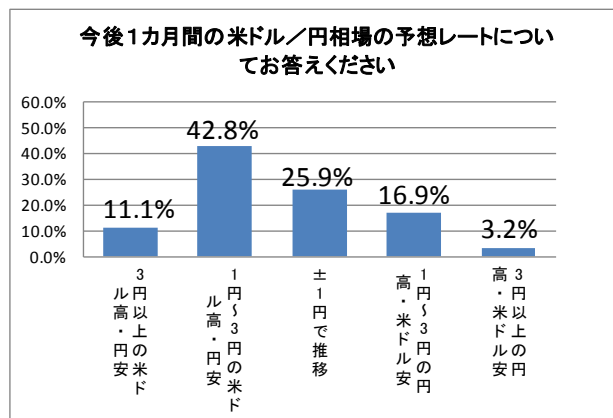
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が43.7%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は22.7%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+21.0ポイントとなり、+35.7ポイントとなった前回からプラス幅が縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は、米国の量的緩和第3弾(QE3)縮小観測から、米ドル/円と相関性が高いとされる米10年債利回りが上昇した一方、米長期金利の上昇を嫌気して世界的に株価が下落したため、96円台半ばから98円台半ばの狭いレンジで方向感に乏しいもみ合いとなった。こうした相場展開の中、FX投資家の米ドル強気・円弱気予想が揺らぎ始めている様子が覗える。

※過去の 米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が42.8%と最も多く、「±1円で推移」が25.9%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は16.9%、「3円以上の米ドル高・円安」は11.1%、「3円以上の円高・米ドル安」は3.2%という順となった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的といえるだろう。もっとも、米ドル/円の値幅については、比較的小幅な上昇を見込む向きが多い。「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」に、合計で68.7%の回答が集まった点から推測すると、FX投資家の米ドル/円の予想コアレンジは、おおよそ96.50円～100.50円と考えられる。



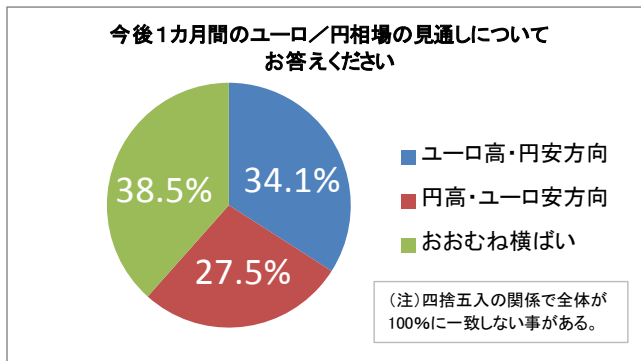
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が34.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が27.5%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+6.6%ポイントとなり、かろうじてプラスを維持した。調査期間中のユーロ/円相場は、12日に付けた直近安値(127.97円)から反発したものの、その後は130.00円を挟んでもみ合った。下値が堅いとみる事も、上値が重いとみる事も可能な相場展開であったため、FX投資家らは、ユーロ/円相場の先行きに明確な方向感見出しにくかったものと思われる。その結果、「おおむね横ばい」を予想した割合が最も高くなったのだろう。

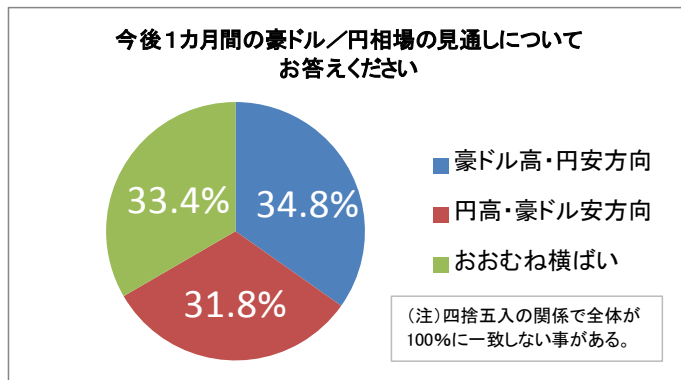
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が34.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は31.8%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+3.0%ポイントと、2か月連続でプラスとなったものの、プラス幅は前回(+14.2%ポイント)から縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は、87円台後半から90円台前半でもみ合う展開となり、一時の下落トレンドからは脱した感もあるが、90円台は重く、上値は伸びなかった。こうした値動きから、FX投資家の予想は、上昇、下落、横ばいに、ほぼ3等分されるとい、いかにも相場観が定まらない様子が示された。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

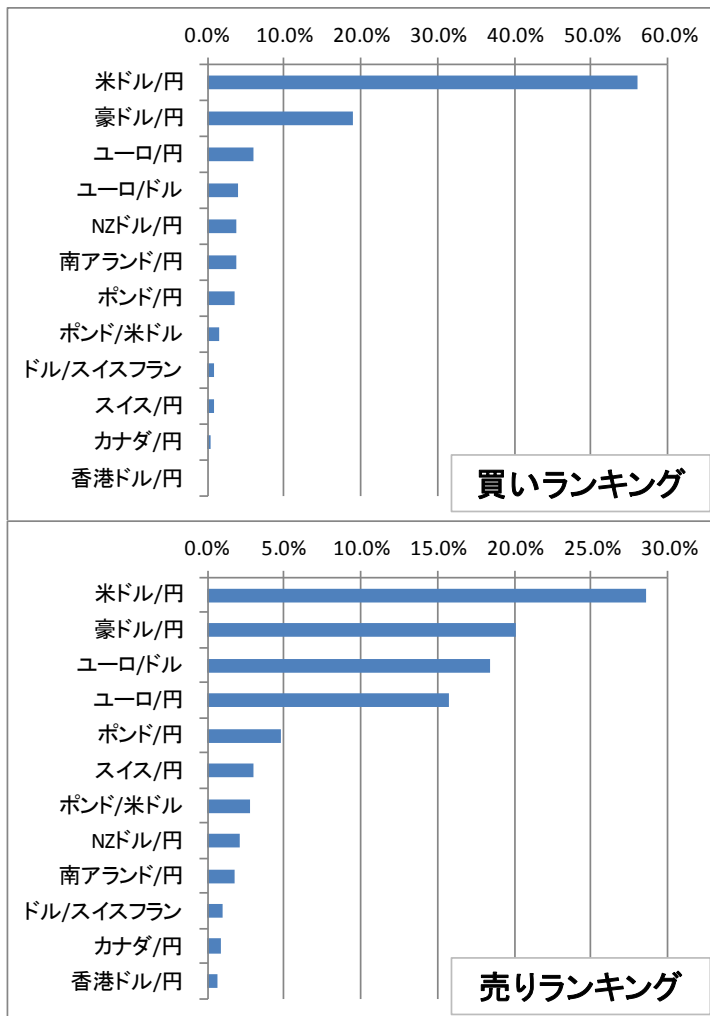


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

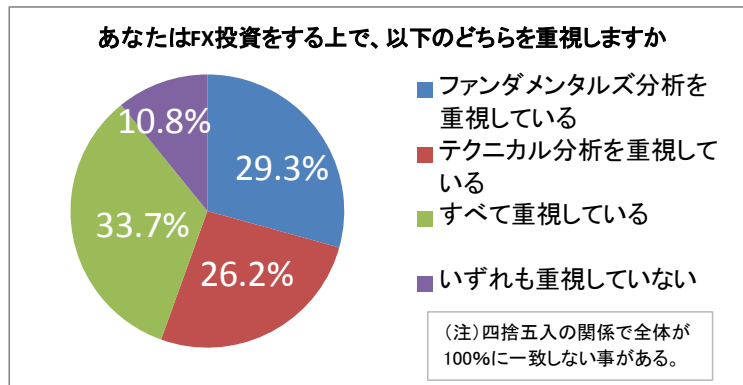
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(56.1%)、2位豪ドル/円(19.0%)、3位ユーロ/円(5.9%)、4位ユーロ/ドル(3.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(28.6%)、2位豪ドル/円(20.1%)、3位ユーロ/ドル(18.5%)、4位ユーロ/円(15.8%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が、やや回答割合を落としながらも(前回:60.6%)、2位以下に大差を付けてトップの座をキープした。なお、順位については前回調査から変動がなく、回答割合も米ドル/円がやや低下した以外は概ね変化がなかった。前回調査以降の約1カ月の間には、FX投資家の相場観に大きな変化がなかったと言って良いだろう。「売り」で注目の通貨ペアでは、「買い」と同様に米ドル/円と豪ドル/円がワンツー・フィニッシュとなっており、両通貨ペアに対する注目度合いの高さが示された。ただ、豪ドル/円を「売り」で注目する向きは「買い」で注目の19.0%を上回る20.1%に上っており、FX投資家の豪ドル/円に対する視線は、厳しさを増しつつあるようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

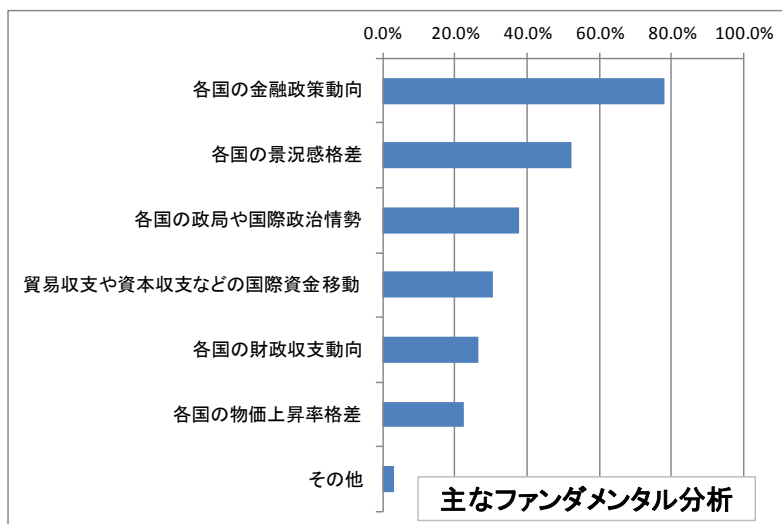
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が29.3%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が26.2%、「すべて重視している」が33.7%という回答割合であった。前回調査の結果と比べて大きな相違点はなく、FX投資家の相場分析手法に対するスタンスに目立った変化は見られなかった。為替相場も多くの通貨ペアがもみ合いを続け、FX投資家の相場観にも顕著な変化が見られないとなれば、その分析手法にも変化がなくて当然なのかもしれない。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(78.2%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(52.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(38.0%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(30.7%)」、「各国の財政収支動向(26.3%)」、「各国の物価上昇率格差(22.3%)」の順に続いた。依然として「各国の金融政策動向」が圧倒的な回答割合を集めているが、米国の量的緩和第3弾(QE3)の縮小が、為替市場のメイン・テーマとなっている現状を鑑みれば、当然の結果と言えるだろう。

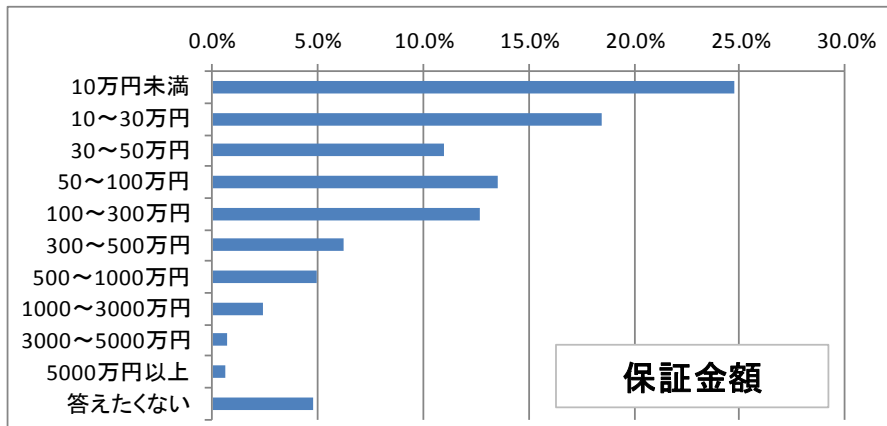


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

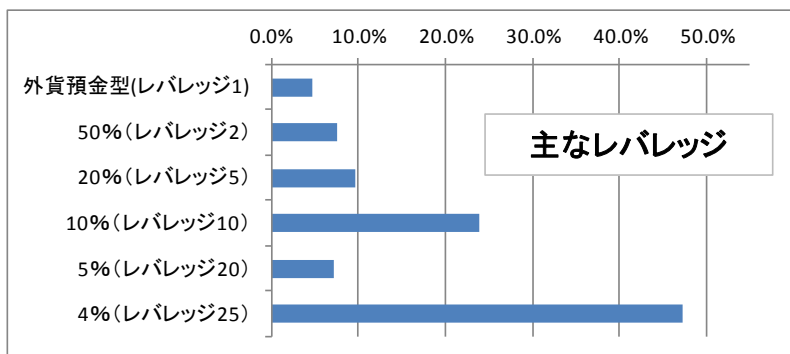
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.8%と最も多く、以下「10～30万円(18.5%)」、「50～100万円(13.5%)」、「100～300万円(12.7%)」、「30～50万円(11.0%)」と続いた。ほぼ4分の1が「10万円未満」の保証金で取引しており、7割近く(合算割合で67.8%)が100万円以下の保証金で取引を行っている事になる。比較的小額の保証金で取引が可能であるというFXの特徴を良く表していると言えるだろう。なお、「500万円以上」と答えた合算割合は8.6%と、前回調査の10.1%からやや低下した。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が47.2%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.9%、「20%(レバレッジ5)」が9.6%と続き、以下「50%(レバレッジ2)」が7.5%、「5%(レバレッジ20)」が7.2%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが半数近くを占めており、順位も回答割合も前回調査とほぼ同様の結果となった。小額の保証金を可能な限りの最大レバレッジで膨らませるというのが、FX投資家のスタンダードな取引スタイルのようにも感じられる。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.3倍と、前回調査の16.0倍からほぼ横ばいであった。

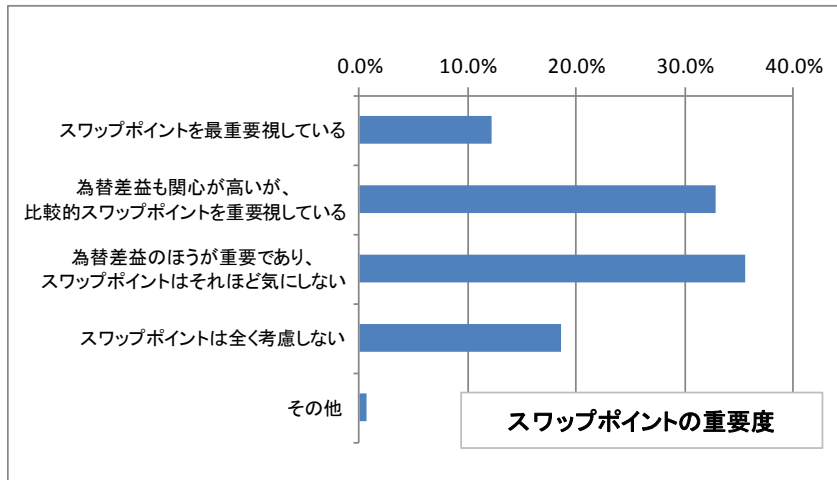


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

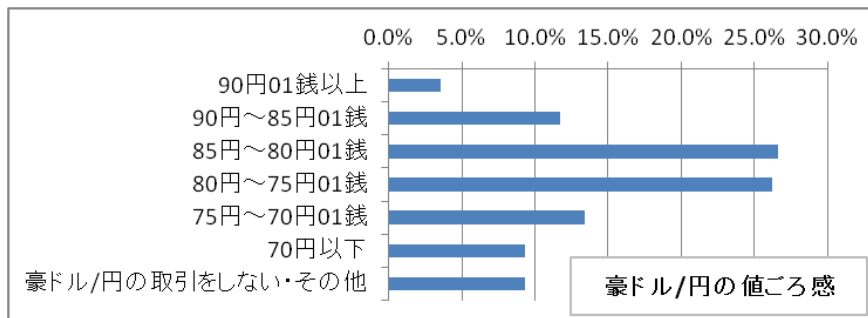
問10: スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?

今月の特別質問項目として「スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「為替差益のほうが重要であり、スワップポイントはそれほど気にしない(35.6%)」が最も多く、僅差で「為替差益も関心が高いが、比較的スワップポイントを重要視している(32.8%)」が続き、次いで「スワップポイントは全く考慮しない(18.6%)」、「スワップポイントを最重要視している(12.3%)」という順になった。また、その理由を自由記述方式で尋ねたところ、スワップ重視派からは「長期保有が前提のため」という回答が多く、スワップポイント軽視派からは「デイトレード専門のため」、「もともと金利差が小さいから」、「スワップポイントにこだわると売買判断を誤りかねないから」などとする回答が目立った。



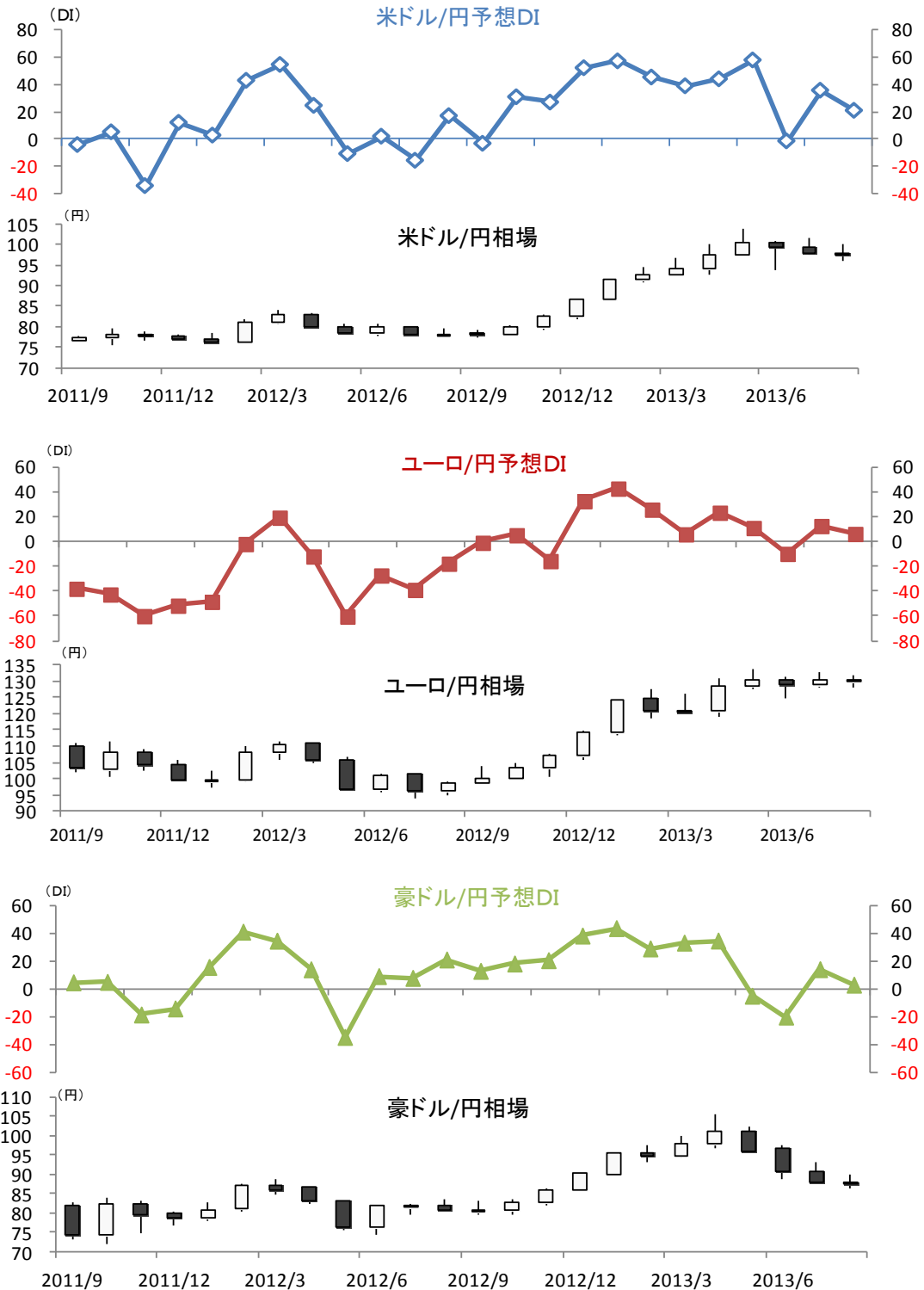
問11: 豪ドル/円が“割安”だと感じる水準(買いポジションを持ちたいと思う水準)をお答えください(ひとつだけ)

今月のもうひとつの特別質問項目として「豪ドル/円が“割安”だと感じる水準(買いポジションを持ちたいと思う水準)をお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「85円～80円01銭(26.6%)」、「80円～75円01銭(26.2%)」と続き、次いで「75円～70円01銭(13.4%)」となった。また、ほぼ調査期間内のレンジ内にあたる「90円～85円01銭」と答えた向きも11.7%存在した。比較的、現値に近い水準を挙げる声が多いのが印象的だ。豪ドル/円は、今年4月に105.39円という約5年半ぶりの高値を示現した後に、8月初旬には86.41円まで約18%も下落している事から、下落余地はそれほど大きくないと考える向きが多かったのかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第51回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com